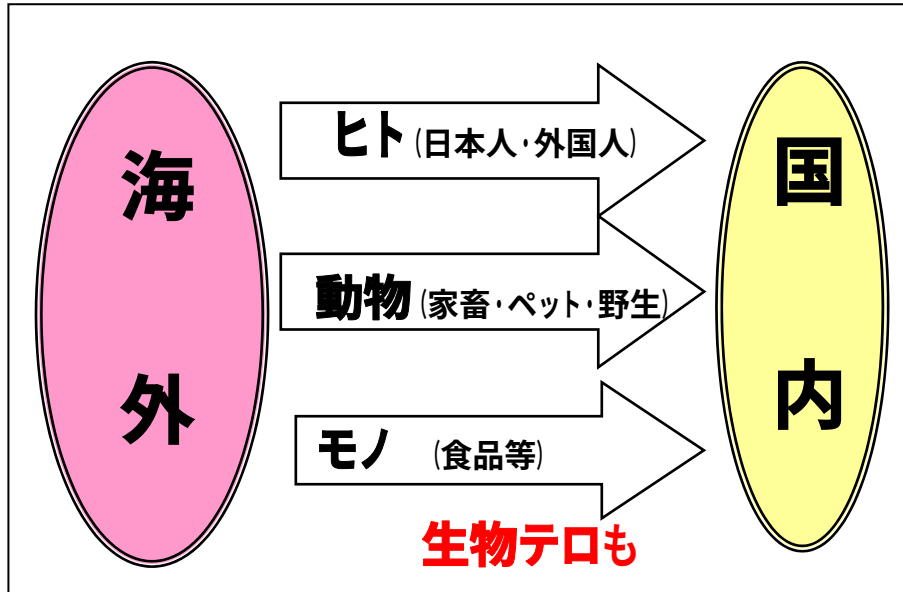
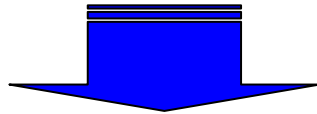


我が国への新興・再興感染症の侵入



「感染症の流行に国境など存在しない」

「海外で発生する感染症は何であれ国内で発生する可能性がある」



- ・水際の体制は十分か？
- ・国内侵入の早期発見体制は？
- ・発生したアウトブレイク封じ込め体制は？
- ・国民への情報提供の体制は？
- ・法律、組織は十分か？
- ・医療提供体制は十分か？

対策基盤となる科学技術は十分か？

日本と海外の人と動物の往来 (2001)

人	日本人	1600万人	
	外国人	500万人	
動物	検疫対象	500万頭	100万羽
	非検疫	100万頭	20万羽
船舶		7万隻	
航空機		12万機	
(輸入貿易金額: 44兆円)			

各国P4施設の現状

最高度安全実験施設 (BSL-4)

ウイルス性出血熱及びバイオテロ対応

所有国	S	C
アメリカ	・NIH ・CDC (増築中) ・USAMRIID ・テキサス州立大 (ガルベストン:増築中) ・サウスウエスト財団 (テキサス州サンアントニオ) ・ボストン大学 (2005年建築開始)	・NIH ・CDC ・USAMRIID ・テキサス州立大 (ガルベストン) ・ジョージア州立大
イギリス		・DSTL ・HPA
フランス	・Inserm (リヨン)	
ドイツ		・マールブルグ大
スウェーデン	・国立感染症対策研	
カナダ	・国立微生物研	
オーストラリア		・Victoria IDRL
南アフリカ	・国立ウイルス研	・国立ウイルス研
ガボン		・パスツール研
ロシア	・ノボシビルスク ベクター研	・ノボシビルスク ベクター研
インド		・DRDE (グアリオール)
台湾		・予防医学研
日本		・NIID(村山:使用できず)

スーツラボ (S)



写真: 米国CDC

キャビネット (Glove Box) ラボ (C)



写真: 日本NIID (村山)

動物用P4施設: オーストラリア、スイス、ドイツ、米国 インド他4カ所